

茶山ポエム絵画展雑感

理事 山下 英一

茶山ポエム絵画展が始まりましたが、中国新聞2021年9月8日付けの新聞に、二件の気に止まる記事が掲載されましたので雑感を述べます。

一件目は福山市の備後一宮吉備津神社の50年ぶりとなる本殿の保存修理工事が本年12月に落成を迎えるとの事です。この修理には、日本に伝わる17分野の内の14分野の各工匠が集まり、技術も素材も次世代へ継承するべく作業をされています。正に職人の技が日本の文化を将来に伝えているのです。私達はこの様な所にもっと目を向ける必要があると思います。

さて廉塾・菅茶山旧宅整備事業は若干の遅れは出たものの、着々と修復工事が行われております。昨年12月に福山市文化振興課の担当の方から、工事内容等の解説及び説明を聞き、当初持っていた不安等は払拭されました。

吉備津神社の修理の一例で言いますと、一枚の板で部分的に腐食箇所がある場合、その部分を削除して新しい部材を張り合わせて復元する作業(古材繕い)が、廉塾の修理でも行われていることが判りました。廉塾修復の基本理念は「国特別史跡指定当時を適切に保存し、次世代へと確実に継承していく」です。これらを合わせて想像してみますと修復完成後は素晴らしい廉塾になり、神辺に住むものには大きな宝物が出現することになると思われます。

今、顕彰会では会員の高齢化が進み会員の減少が続いています。会ではどのように新会員を募るのかと大きな課題があります。菅茶山と廉塾は正直なところ余り知られていない。どうすれば知ってもらえるか考える必要があると思います。そのためには、①廉塾整備事業の進捗状況をどんどん出すべきです。②小・中学生を対象にした行事の考案。③菅茶山記念館をもう少し活用する行事の考案。等ももっともっと広報に力を入れる必要があります。

二件目は茶山ポエム絵画展に関する事です。毎年300点を超える応募があり、児童、生徒にとっては貴重な情操教育になっています。私は絵の審査員として参加させて頂いていますが、例年の如く嬉しい反面、審査には苦勞をしました。

昨年は皆さんもご存じのように「鬼滅の刃」が大ブームとなりました。放課後児童クラブで教室に行きますと、自由時間の遊びといえば鬼滅の刃の塗り絵ばかりでした。彩色は見た絵の通りで皆が同じ色、それは茶山ポエムの絵とは真反対の絵なのです。そこで絵の好きな私は自分の絵で自分の色で描き、それを児童に見せますと一様に驚いていました

呉市にお住いの71歳になられる女性絵手紙作家で特別非常勤講師の方が紙上で述べられている事を一部紹介します。「絵手紙に失敗はない。みんなを笑わせれば大成功」、高学年になるとタブレット端末を使って似たようなものを描くがそこには「自分がいない。線も集中して引かないと生きたものにならない」「どの子も、もっと自分らしさを出せるようにしてあげたい。自分の色を引き出して上げたい」と話されています。

茶山ポエム絵画展は子供の成長に大きく寄与していると思います。今後もさらに発展して行くよう微力ではありますが協力して行きたいと思っております。